

## 将来のグリーンベルト構想

### (1) サクラについて

「サクラ切るバカ、ウメ切らぬバカ」と話しにあるが、ウメは、20～30 cm以下の短枝に良く花芽がつくために、短枝を多くださせ花芽を多くするために毎年剪定する必要がある。

サクラは、切口面が治癒しにくく腐朽菌が入りやすいことや、萌芽力が弱いために樹形が乱れやすい樹種である。そのため、剪定することがタブーとされてきた。そこで、樹冠が大きくなり過ぎたサクラが各地で問題視されている。

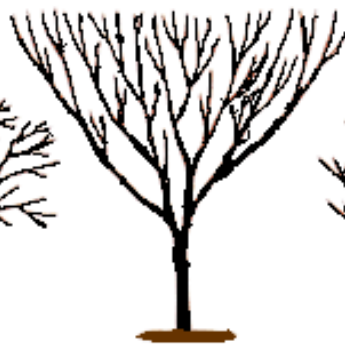
本来サクラは典型的な陽樹のために、成木になった時の自然の樹冠幅を考慮した植栽間隔とすべきであり、事前に十分な検討が必要である。サクラの樹形には、枝垂れ状(シダレザクラなど)・傘状(ソメイヨシノなど)・盃状(ヤエベニオオシマなど)・広卵状(イチヨウなど)・円柱状(アマノガワ)がある。



枝垂れ状



傘状



盃状



広卵状



円柱状



シダレザクラ



ソメイヨシノ



ヤエベニオオシマ



イチヨウ



アマノガワ

植栽する環境(特に歩道幅員)に合った品種(樹高・樹形)を選定し、将来の管理目標の樹形を設定し、それに沿って定期的に維持管理をしていく必要がある。

剪定は、建築限界を考慮して歩道側及び車道側の下枝をなるべく枝が細いうちに切除することが大切である。樹冠が大きくなってから太い枝で剪定すると、切口の癒合に時間がかかり、腐朽菌に侵され、そこから幹に進み、心材や辺材を腐らせ、枝折れ、倒木、立枯れに至る。

【ハミングロードの樹木】

樹木名	管理上の注意点
サクラ カツラ コナラ	根株腐朽菌による倒木に注意が必要。 材質が柔らかく、心材腐朽しやすい。 枝先からも腐朽菌が侵入しやすいので、枯れ枝の早期発見が必要。 サクラにはコスカシバの幼虫が穿孔する。
ケヤキ	材質が硬く、長い枝の落下では大事故につながる。 強剪定後の枝枯れや、空洞化に注意が必要。
クスノキ	成長が早く、送電線近接に注意。 カラスが巣を作りやすい。
シラカシ マテバシイ シイノキ	樹幹を寒さにあてると衰弱する。 冬季剪定した場合、枝枯れが発生しやすい。 カワラタケなどの発生に注意。
サルスベリ	うどん粉病の発生後は殺菌剤を散布する。
サザンカ	チャドクガの幼虫に注意。
アジサイ	葉を食害するアジサイハバチの幼虫に注意。

そのため、早めに切返し剪定を行うことで、小ぶりの樹冠を維持し、小さい切口面を短時間で癒合させ、小ぶりの樹冠に維持することができる。ソメイヨシノなどは接木で繁殖させるために寿命が 50～60 年と短いとされている。そのために、不健全木や枯損木などは定期的に植え替えることが望ましいといえる。



老木化したサクラの若木への植え替えのシミュレーション  
(現状 (左) 左側手前と反対車線の老木を植え替えた例 (右))

東習志野エリアは盃状のヤエベニオオシマの桜並木であるので、車道に伸びる枝についてはソメイヨシノよりも管理しやすい。

昨年は送電線に近接した枝の強剪定を行ったが、適切な位置での剪定を実施したため、ダメージは抑えられていると認識している。

### (2) 低木類について

ハミングロード再整備を平成 16 年から実施しており、低木類の植栽も行っている。

車道側にツツジ、園路を挟んで市の花アジサイを植え付けているが、日照不足からツツジの開花が少なめである。

ヤエベニオオシマの定期的な剪定を実施することで、日照不足を補うことができれば、ハミングロードは四季折々に花が楽しめるフラワーロードとなる。

また、ツツジは酸性の土壌を好むので、再整備区間の土壌改良には pH 調整のためのピートモスなども混入し、植栽基盤の改良に努めている。

### (3) 除伐・間引き

ハミングロードに植栽工事が行われたのは昭和 52 年前後である。高度経済成長期で習志野市に積極的に緑を増やそうとした時代背景があるため、狭い間隔で苗が植えられた。

今後の成長度合いや、管理費用を鑑みて、近接した樹木が競合している箇所については間引きも検討していかなければならない。

#### (4) グリーンベルトの役割

日本有数のグリーンベルトであるハミングロードは、習志野市の誇るべき資産である。ヒートアイランドの減少効果や、CO<sub>2</sub> 削減効果はもとより、夏の日照りの中マラソンやサイクリングを楽しむ市民にとって貴重な日陰を提供する。

是非、将来にわたりこの大切な緑道を守っていきたい。